



美しい畑と元気な里芋 山形県寒河江市・武田さん



▼7月中旬、里芋の前半戦の仕上げでもある子芋の葉を落とし、マルチを外し、雑草を取り、最高級肥料ともいえる有機アミノ酸肥料を追肥し、中耕を終えた武田さんよりLINEがあった。

▼早速、現地を視察した。しっかりと雨が降ったこともあり、土は素晴らしい団粒構造を形成している。幅広で高畝の畝間に管理機がまっすぐ入り、除草剤を使ってもここまできれいにならないほど、手作業で丁寧に除草され、畑全体はもちろん細部まで美しい。さらに周囲の里芋畑に比べて明らかに大きく葉を広げている。この広さを「親戚のおばちゃん」と二人でこなしていることにも驚く。そう考えると女性ならではの繊細さがそうさせたのかもしれない。「だって、がんばったもーん」と笑顔の武田江利子さん。

実はその背景には昨年の猛暑干ばつによる前年の1/4という大減収（大赤字）があった。

▼4年前と一緒に農業をしていた母が病で衰弱するなか、収穫用の掘取り機と専用の中古トラクターを120万ほどで購入し、母が亡くなったその翌年には、約90万円で種芋の植付け機と選別機を導入しての結果だった。まるで昭和初期のような重労働は大幅に改善されつつも、減収が続けば農機具代のローン返済はもちろん、肥料さえ購入できなくなる。昨年末、離農を考えたが、これまでの全有連と会員みなさまの心ある言葉や支援の数々に留まることを決心。今年は大減収の原因、干ばつ対策として井戸を掘り、散水機を導入（50万円ほど）した背水の陣でもあった。

▼後半は、このきれいな畝に雑草が茂る。猛暑のなかでもしっかり手除草し、干ばつであれば今年導入した散水機を使う。今年豊作の可能性があり数少ない挽回のチャンスとなる。「これからもがんばるしかない」と口にする武田さん。

▼武田さんだけでなく、さくらんぼなど減収に苦しむ生産者へ精神的な支援にもつながる「カンパ付き追加購入」を検討中です。ご案内時にはご協力を何卒よろしくお願いたします。（佐藤）

今週の生産者ひとこと

—— 全国の生産者の心意気届けます。 ——



ツルムラサキ\*大江さん

夏のアンチエイジング健康野菜のツルムラサキを無農薬で作る大江さん。試行錯誤を続け3年目となり、野菜の動きも見え始めました。



モロヘイヤ\*岡崎さん

夏のアンチエイジング健康野菜のモロヘイヤを担当する健康重視の野菜を無農薬で作る岡崎さん。硬い茎は取り除き、水を霧吹きして袋詰め。



果樹だより

雨続きの山形。今週は希少品種「紅りょうぜん」や「早生ソルダム」のお届け。雨により味が薄まってしまいうなか、よいものを選別してお届け。



稲作だより

今年より、不足していた減農薬米を野菜を担当する岩月さんをお願いした。特別栽培とはいえ、田んぼにはカエル、ドジョウなどの姿も。